



▲小笠原市長にJCHO登別新病院の基本構想を提出するJCHOの宇口理事

## 新病院の方向性を提示

JCHO登別新病院の基本構想の提示

12/20

平成28年12月20日(火)、市役所に地域医療機能推進機構(JCHO)の役員の方などが来られ、登別東町3丁目に移転・新築することとなっているJCHO登別新病院の基本構想が提出されました。

基本構想では、新病院が備える診療科や主な機能などのほか、訪問看護ステーションの運営や地域包括ケアの構築への取り組みなどにより、地域医療の要としての役割を果たすコンセプトが示されました。

市は今後、地域医療のさらなる充実のため、平成32年に予定している新病院の開設に向けて、今後もJCHOと協議・連携していきます。

## コミュニケーションで 広がる国際理解

1/11

### 第5回国際理解講座

1月11日(水)、市民会館で、米国出身の瀧澤ジェーンさんを招き、『第5回国際理解講座』(市主催)を開催しました。

参加者は、海外旅行先のホテルやレストラン、空港などでよく使う英会話を学んだほか、ペアを組んでお互いに英語を使った自己紹介を行いました。

簡単な英語でも積極的に会話をするのが交流の第一歩であることを学び、参加者にとって、国際理解を深める大変有意義な時間となりました。



▲「積極的に話しかけることが大切」と話す瀧澤さん

## 『登別温泉』・『カルルス温泉』 『鬼像』で市内経済活性化

1/1

### 『ふるさと名物応援宣言』と『元旦縁起もちつき』

1月1日(日)、登別温泉街の泉源公園で行われた『元旦縁起もちつき』の場において、『ふるさと名物応援宣言』(市主催)を行い、小笠原市長が『登別温泉』、『カルルス温泉』、『鬼像』の3つを『ふるさと名物』として宣言しました。

同宣言は、経済産業省中小企業庁が実施するもので、市町村が地域を挙げて支援を行う『ふるさと名物』を位置付け、地域ブランドの育成・強化を図り、売上や雇用の拡大、地域経済の好循環につなげる制度です。今回の宣言により、市内中小企業が『ふるさと名物』を活用して、商品やサービスの開発・生産などに取り組み際に、どのように行うかを定める『地域資源活用事業計画』への国の補助金が優先的に採択されるほか、地域の特徴を生かした商品の開発や販路開拓、ブランド化などの取り組みを進める人材を育成する研修への優先参加などが可能となります。市は今後、市内企業者に対して『ふるさと名物』の積極的な活用を促すとともに、事業者が定める『地域資源活用事業計画』の作成支援を行っています。

また、応援宣言の後の行われた『元旦縁起もちつき』(登別観光協会主催)では、勢いよくきねを振り下ろしたり、互いにきねを放って交換したりするパフォーマンスなどに観客から大きな拍手が送られました。



▲訪れた観光客などの前で『ふるさと名物応援宣言』を行う小笠原市長(中央)



▲笛と太鼓の音色が響き渡る中披露されたもちつき